

芦ノ湖

箱根のシンボルである芦ノ湖は、火山の箱根山中心部の頂上の神山の噴火が溶岩流と火山岩を発生させ、早川をせき止めた頃の約 3,000 年前に形成されました。上から流れて来る雨水と、下から湧き上がる地下水が混ざって溜まった川の水が、現在では水深 43.5 メートル、外周 19 キロの湖を形成しました。火山性の温泉があるおかげで、芦ノ湖は冬でも決して氷で覆われることはありません。水は空気よりも温かいこともしばしばで、湖岸ではよく濃い霧が発生します。

万巻と龍の伝説

芦ノ子は地元の伝説において重要な役割を担っています。最も有名なのが、万巻上人で、彼は箱根神社の建立者として知られる修行僧です。西暦 757 年、駒ヶ岳近くでの修行中に、万巻は湖の近くに神社を建てるようにと神託を受けました。しかし当時、芦ノ湖は恐ろしい龍に支配されており、村の人々は、龍の怒りを買わぬよう、湖岸に地元の少女を生贄として捧げていました。龍の怒りに怯まなかった万巻は、水の中に置いた石壇の上に座り、三日三晩祈りまし

た。龍は最終的に観念し、自らの行いを詫びるまでになりました。しかし万巻はこれで満足せず、この敵を逆杉（地滑りで根こそぎ水中に真っ直ぐ流され、湖の底にはまり込んだ杉の木）の1本に縛り付けました。懺悔した龍は9つの頭を持つ龍の神、九頭龍となり、住民が毎年お祈りをして彼を称える限り、この土地の守り神になることを誓いました。現在でも逆杉は湖の中に残っており、その幹は水がとても澄んでいる日には水面下深くで確認することができ、一方万巻が祈りながら水中に座ったとされる場所は、九頭龍神社近くの岸から少し離れた場所にある赤い鳥居の門が目印になっています。毎年行われる九頭龍へのお祈りは、箱根夏祭りウィークの幕開けとなる湖水祭りの7月31日に行われます。

花火と見事な眺めを楽しめる設定

花火が毎晩打ち上げられ、6日間を通じて行われる祭りに加えて、芦ノ湖では1年を通じてその他にもいくつかの花火大会が開催されます。「しだれ柳」の花火が目玉の15分のショーは、新しい1年を迎えるために12月31日の深夜に開催され、一方、これによく似た2月2日の夜の20分間のショーは、節分

(日本における伝統的な春の始まり)を前にしたお祭りの目玉です。クリスマス前後では、「トワイライト」の花火がホリデー気分を高めます。冬の澄んだ空気により、この色が爆発する光景は特に印象的なものになります。季節に関わらず、芦ノ湖は、海賊船のような見た目にデザインされた観光船に乗って体験することもできます。珍しく晴れた日には、これらの船の1つのデッキから見える遠くの富士山と、箱根神社の赤く輝く鳥居の景色は、忘れられないものになるでしょう。